

〈アクションプラン 2〉

重点項目	生徒指導
重点課題	誰にでも挨拶をし、温かい言葉遣いや行動をする。
現 状	<p>進んで挨拶をし、温かい言葉遣いができる子供を育てるため、児童会(運営委員会)を中心に挨拶運動やふわふわ言葉の啓発活動(毎月22日を「ふわふわの日」とする)を行ってきた。その結果、子供たちは挨拶や温かい言葉遣い、行動の大切さを意識できるようになってきている。しかし、自分から進んで家族や地域の人、来校する人に挨拶することや誰にでも温かい言動をすることについては、今後も指導が必要である。</p> <p>昨年度の児童評価は、あいさつ81%、温かい言葉遣い84%であった。保護者評価はそれぞれ76%、74%であった。教員評価は89%、94%であった。時と場に応じた言動の充実とよりよい人間関係の構築を意図し、子供たちが誰にでも挨拶をし、温かい言動を身に付けることができるように目標に取り組む。</p>
達成目標	児童及び保護者の評価… A、B評価の合計を80%以上とする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○運営委員会が中心となり「挨拶運動」や「ふわふわの日」を継続し、挨拶と温かい言葉遣いの言動が身に付くようにする。 ○「挨拶運動」は、クラスや縦割り班を単位とし目当てをもって参加できるようにする。 ○毎月22日を「ふわふわの日」として、毎月末「振り返りカード」で子供が自己評価する。さらに、クラス全体で翌月の課題を話し合い、意識して行動できるようにする。 ○挨拶や言葉遣いに関する情報を学校だよりや学年懇談会、学年通信等を家庭へ発信し、家庭でも意識して取り組めるようにする。 ○小・中・高校の連携による「さわやか運動」に取り組み、家庭や地域での挨拶が活発になるようにする。

方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○校内における「あいさつ運動」を継続し声掛けを積極的に行う。 ○毎月 22 日を「ふわふわあったか行動の日」として、「ふりかえりカード」で自己評価し、達成度を確認する。また、学期に一回は、クラスでの話合いの時間を設け、よりよい運動になるように改善を行う。年間を通して継続することで意識の高揚を図る。 ○帰りの会や学級活動等で一日の振り返りの場を設け、子供一人一人の温かい言葉遣いや行動への意識を高め、一層の定着を図る。 ○小・中・高校の連携による「さわやか運動」(年 5 回)を地域の方々の協力と参加を得ながら家庭・地域と連携して取り組む。
-----	---

〈アクションプラン 3〉

重点項目	健康・安全指導
重点課題	自分の目標に向かって運動する。
現 状	昨年度は業間や縦割り班活動の時間に様々な運動に取り組んだ。また、家庭でも保護者とともに運動する機会を得られるように、チャレンジ体力づくりのカードを記入し、学校での体力づくりの取り組みを家庭に知らせた。家庭欄の通信欄を見ると、子供のがんばりを認めるよい回答を得られたが、保護者評価は、70%と依然として上がってこないことが分かった。
達成目標	児童及び保護者の評価…A、B評価の合計を80%以上とする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとに、子供に運動の目標をもたせる。1学期は、スポーツテストの結果を見て、運動の目当てを決める。2学期は、持久走の目当てを設定し業間走に取り組む。3学期は、縄跳び発表会に向けて目当てを設定する。そして、達成した子供には次の目標を設定し、目標カードを工夫することで子供の意欲が継続するように配慮する。 ○チャレンジ体力づくりカードや各種便り等で、学期ごとに運動の状況や健康状態を家庭に知らせるようにして、家庭と連携をとりながら運動への意欲が高まるようにする。 ○縦割り班活動を計画的に取り入れ、運動への意欲を高めたり、高学年の動きを真似したりできる機会を設ける。 ○運動に親しめる環境を整えたり、技を紹介したりして、意欲的に運動に親しめるようにする。